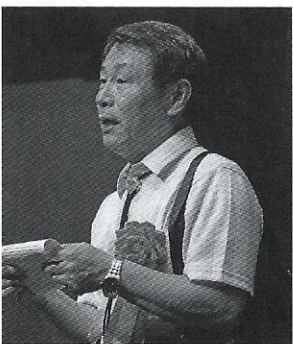


サモア

隊員派遣から40年 歴史に思いを馳せる

独立から50周年、JICAボランテイア派遣開始から40周年を迎えたことを記念し、駐日サモア大使館主催による記念式典が6月29日に東京で開催された。

当日は、日本サモア友好議員連盟顧問の森喜朗元首相などの国会議員や来賓と共に、協力隊、シニア海外ボランテイア経験者約120人が招待された。ボランテイ



式典で挨拶するサモア第1号
隊員の山川精一OB

アを代表して、サモア隊員第一号の山川精一OB（S47-12・土木施工）が挨拶に立ち、「当時サモアは西サモアと呼ばれていた。最初の隊員要請は、医師、建築、土木施工の計6名だったが、実際に訓練生となったのは、自分一人だった」などのエピソードを紹介した。

山川OBの派遣から40年。延べ468人の隊員がサモアで汗を流し、現在も25人が活動している。

青年海外協力隊サモアOB会の大塚一雄会長（S63-13・システムエンジニア）は、「駐日サモア大使館から式典の連絡があったのは今年2月頃。あらゆる手段を使って発信した結果、北海道から沖縄まで懐かしい仲間が集り、とてもうれしい」と顔をほころばせた。今回の式典を機に、これまで築かれた日本とサモアの友好関係がより一層深化していくことが期待される。